

第四十九回 正門別會 特別公演

二十六世觀世宗家 觀世 清和

独演 翁 付キ 五番能

令和三年六月二十日(日)

一部 午前十時 開演
二部 午後四時 開演

第49回 正門別会 特別公演

二十六世観世宗家 観世清和

独演 翁付キ五番能

一部 午前十時開演

二部 午後四時開演

番組

番組

翁

ツレ 観世三郎太

シテ 観世 清和

面箱 野村 裕基
三番叟 野村 萬斎
千歳 観世三郎太

三番叟後見 深田 博治
中村 修一

高

砂 ワキ 福王茂十郎
八段之舞 禮脇 矢野 昌平

間 野村太一郎

大鼓 亀井 広忠
脇鼓 田邊 恭資 太鼓 金春惣右衛門
小鼓 大倉源次郎 笛 杉 信太郎
脇鼓 大倉伶士郎

後見 上田 公威
武田 宗和

地謡

井上裕之真 杉浦 豊彦
武田 宗典 中島志津夫
坂井 音雅 角 寛次郎
藤波 重孝 観世 芳伸
大西 礼久 井上 裕久

末広かり

野村 万作

野村 遼太
石田 幸雄

後見 内藤 連

狂言

(休憩二十分)

羽

シテ 観世 清和

衣

ワキ 宝生 欣哉
彩色之伝 大日方 寛

大鼓 亀井 広忠
小鼓 飯田 清一 笛 松田 弘之

後見

吉井 基晴
山階彌右衛門

地謡

杉浦悠一郎 津田 和忠
武田 祥照 藤井 完治
坂井 音隆 武田 志房
野村 昌司 関根 知孝

二人袴

山本東次郎

山本 則俊
山本 則重
山本泰太郎 後見 山本 則孝

能

(休憩二十分)

卒都婆小町

シテ 観世 清和

ワキ 森 常好
一度之次第 館田 善博

大鼓 亀井 忠雄
小鼓 観世新九郎 笛 一噌 庸二

後見

武田 尚浩
野村 四郎

地謡

関根 祥丸 浅見 重好
坂井 音晴 岡 久広
林 宗一郎 梅若 実
藤波 重彦 上田 貴弘

「翁」
能・狂言とは異なる様式を伝え、むしろ祈禱、儀式の要素が強い。
翁・千歳・三番叟の所役が天下泰平、国土安穩、五穀豊穰を祈り舞う。

「高砂 八段之舞」
高砂の浦を訪れた神官は、松を掃き清める老夫婦に出会い、高砂と住吉の松が「相生の松」と呼ばれる謂れを聞く。老夫婦は自分たちこそ松の精だと言い、住吉で待っていると告げ小舟で沖へ去る。住吉に出向いた神官の前に松の精が現れ、御代を祝福して舞を舞う。

「清経 恋之音取」
平清経は平家一門と西国に逃れるが、源氏との戦に敗れ豊前国・柳ヶ浦で入水して果てる。
家臣の淡津三郎は、形見の髪を清経の妻に届けるべく密かに帰京する。夫の死を聞いた妻は、戦死や病死ではなく、自分を置き去りにして自殺したことを嘆き恨む。
泣き伏す妻の夢枕に現れた清経は、死を選んだ経緯を語り、修羅道に落ちて苦しむ有様を見せるが、死の間際に唱えた十念の功德で成仏できたことと述べ、消えてゆく。

「羽衣 彩色之伝」
三保の松原の漁師・白龍は、松の木に美しい衣が掛かっているのを見つけ、持ち帰ろうとする。
そこへ天人が現れ、それは天人の羽衣なので返して欲しいと頼む。白龍は一旦は断るが、天人の悲しむ姿を見て哀れに思い、舞を見せて貰うことを条件に衣を返すことにする。天人は喜び羽衣を着け美しい舞を舞い、春霞に紛れて姿を消していく。

「卒都婆小町 一度之次第」
高野山の僧が都へ向かう途中に朽ちた卒塔婆に腰掛けた老女に出会った。その女は、小野小町のなれの果てであった。小町は昔を偲ぶうち、深草少将の霊が憑いて心乱れ、少将の百夜通いの有様を語る。
我に返った小町は後世を願い、仏道に入ることを決める。

「石橋 大獅子」
寂昭法師が文珠菩薩の住むという清涼山の石の橋を渡ろうとすると、樵が現れ、人間の渡ることができない橋ではない、奇瑞を待つように、と告げて立ち去る。
やがて菩薩に仕える霊獣の獅子が現れ、咲き誇る牡丹の間を舞い戯れ、千秋万歳を寿ぐ。

午後三時十五分頃 終了予定

午後八時四十五分頃 終了予定

清

ツレ 坂口 貴信
シテ 観世 清和

経
恋之音取
ワキ 宝生 欣哉

後見
林 宗一郎
大江又三郎

地謡

久田 勘吉郎
武田 文志
清水 義也
角 幸二郎
浦田 保浩
上野 朝義
観世 鏡之丞
浅見 重好

大鼓 柿原 崇志
小鼓 幸 正昭
笛 杉 市和

砧

仕舞

観世 鏡之丞

地謡

坂井 音雅
上田 貴弘
岡 久広
藤波 重孝

石

赤獅子 観世 三郎太
赤獅子 角 幸二郎
赤獅子 清水 義也
白獅子 観世 清和

橋
大獅子
ワキ 福王 和幸

後見
間 山本 則孝
坂口 貴信
観世 恭秀
寺井 栄

地謡

木月 章行
木月 宣行
武田 友志
木原 康之
山本 章弘
関根 知孝
山階 彌右衛門
津田 和忠

大鼓 安福 光雄
小鼓 鶴澤 洋太郎
太鼓 林 雄一郎
笛 竹市 学

松虫

半能

一調

(休憩二十分)

梅若 実
小鼓 曾和 正博

令和3年6月20日(日) 正門別会 特別公演

SUN., Jun. 20., 2021 SEIMON-Bekkai Special Performance

1部 10:00開演(9:20開場) 2部 16:00開演(15:30開場)

Part One: Open 9:20 Start 10:00

Part Two: Open 15:30 Start 16:00



二十六世観世宗家
観世 清和

五番能とは

室町時代より観世大夫(宗家)又は観世大夫親子が独演するしきたりで、観世大夫の専権事項である。

江戸時代に式楽(幕府公式芸能)と定められた能は、幕府の厳しい制約のもと、上演形式・能組(番組)編成も決められた。1日の演能は「翁」より始まり、脇能、脇狂言と続き、能を六番上演する。翁の上演は決まり事から数には入れず、五番能と称されることが多い。これが古式の正式な番組である。

この度は二十六世観世宗家が古式に倣い独演致します。

60年に及ぶ斯道で培った技と、気力・体力を一気に放出する歴史的な1日に是非ともお立会い下さい!



チケット ◆ 料金(各部)

- SS指定席 15,000円
- S指定席 13,000円
- A指定席 10,000円
- B指定席 7,000円

4月4日(日)観世会春の別会 ご来場者限定先行発売!
令和3年4月6日(火)10:00発売開始!

☎ 03-6274-6579 (電話)

HP: KANZE.NET (インターネット)



●銀座駅A5出口より徒歩2分 銀座線・日比谷線・丸の内線
便利なGINZA SIX地下連絡通路をご利用下さい

◎諸般の事情により、出演者・時間の変更、また社会情勢により緊急時上演形式を講じる場合もございます。予めご了承下さいませ。

◎「翁」が開演致しますと途中入場はご遠慮戴きます。お時間には余裕を持ってお出まし下さい。

主催 観世清和 正門別会